

若きジャーナリストの挑戦

細江美月

YouTube のスクリーンにスーツに身を包み、落ち着いた声で果敢に政治家に質問する女子大生が映し出される。大川ゆき乃、慶應義塾大学法学部政治学科の二年生だ。彼女は学生団体 BOKUmedia の代表であり、YouTube で学生のための政治解説番組を制作している。

「学生が作るからこそ学生に伝わると思います。」そう語る彼女がこの団体を作ったきっかけは、進路が決まった高校3年生の時に遡る。時間に余裕が生まれ、読書をする機会が増えた彼女は「日本の未来が危ない」という問題意識を持つようになった。少子高齢化やエネルギー問題など日本が抱える問題は多岐にわたる。しかし、日本が抱える問題のスケールに対し、日本の若者の政治に対する意識は低い。「例えば、アメリカで2012年にオバマ大統領と争った共和党のミット・ロムニーを知らない人はいません。しかし日本では日本の政治を担っている政党の党首の名前すら知らない学生もいます。」

プロのジャーナリストと比べ、知識や経験も少なく、物事を判断する材料が乏しい学生でも出来ることはなんだろう。そう考えた大川さんは視聴者が自分で考える基礎知識をつけてもらうような番組を作ることを考えた。彼女の番組では自分の意見は表明せず、あくまで考えるきっかけを与えることに重点を置いている。また、社会的なしがらみのない学生だからこそ、ある種タブーと思われるような基礎的な質問をすることが出来、そういった質問が番組を面白くして、視聴者が政治について考えるきっかけを作ると彼女は話す。

彼女は1つのメディアを作る過程を経験することで、メディアの影響力や怖さを実感したという。1時間以上に及ぶ長いインタビューも3分にまとめてしまうことが出来、回答を考える間を省くことで印象が全く変わってしまう。視聴者側もただ受け身で情報を受け取るのではなく、メディアリテラシーを身に付けていく必要性を強く感じたようだ。

「私が日本や国外で起こっていることを分かりやすく伝えることで政治と国民の架け橋になりたい。」彼女が一番嬉しいのは視聴者の反応が見られた時だ。BOKUmediaはまだ影響力が強いわけではないと大川さんは語るが、視聴者が感想や意見を伝えてくれることがあるという。YouTube に寄せられる批判的なコメントも削除せずそのままにしているようだ。「私の番組を見て日本の問題について考えてくれている人がいることで、何か意義のあることをしているのかな、と思えます。」若きジャーナリストの志は熱い。